

「グループワークによる情報リテラシ」のご紹介

メルマガ 10/29 号の会員の広場でご紹介しましたが、情報システム学会会員 6 名を含む大学教員が、情報リテラシについての新刊書を上梓しましたので、メルマガ誌上でご案内申し上げます。この本では、情報リテラシを、人間活動を系統的に学ぶ教科と捉えて、情報の収集・分析から、論理的思考、課題解決、情報の表現までをグループで演習します。当学会が 2014 年 2 月に発刊した「新情報システム学序説」を念頭に編纂した、初めての情報リテラシ書籍と自負しています。

- ◆ 書名 グループワークによる情報リテラシ
ー情報の収集・分析から、論理的思考、課題解決、情報の表現までー
- ◆ 編著者 魚田 勝臣
- ◆ 著者 渥美 幸雄、植竹 朋文、大曾根 匡、関根 純、永田 奈央美、森本 祥一
- ◆ 体裁・出版・出版年など B5 版 158 ページ 定価 2,500 円＋税 共立出版 2015

この本は書名からコンピュータの本のように思われるのですが、実は人間活動の基本を学ぶ本です。日頃問題なく生活しているのだから、改めて人間活動について学ぶ必要はないと思われるかも知れません。では、つぎの質問はいかがでしょうか。

- ・あなたは、問題が何なのか、明確にすることができますか。
- ・情報を多面的に収集できますか。スマホやメディアから与えられる情報に頼っていませんか。
- ・得られた情報を、自分で分析して正邪を判断していますか。
- ・物事を論理的に考えられますか。
- ・困難な課題は、どのように解決していますか。他人の意見や勘に頼っていませんか。
- ・レポートやプレゼンテーションは得意ですか。
- ・感情を離れて冷静に議論(ディベート)できますか。

上の質問は人間の情報活動について問うもので、毎日の生活の中で実行していることがらです。でも系統的に学んで、それに基づいて行動しているかと問われると、自信がない人も多いのではないのでしょうか。とくに、高校生や大学の初学年の皆さんは、何となく不安に思っていることではないのでしょうか。本書は、まさしくそれに答える本です。社会に出て活動していく上で必須の技能についての本といえます。

本書では、「ごみの減量化」をテーマに、物語性を持って、情報の収集・分析から、論理的思考、課題解決、情報の表現までを学んでいきます。テーマが身近な問題ですので、興味を保ちつつ一人で読んで理解することができます。



でも、企業や役所、それに社会ではひとりで仕事をする機会は少なく、ほとんどがチームを組んでグループで仕事をします。そのため協調性やリーダーシップが求められます。本書では、グループワークで学習を進めます。しかし、グループでやれば仕事は旨く行くというほど甘いものではありません。グループ作りにも理論が必要で、本書ではアイスブレイクという活動から始めます。基本のキから学ぶのが本書の特徴で、ただ答えを示すのではなく、課題について自ら学ぶ・考えることを大切にしています。

人間の活動が情報活動、本書:「グループワークによる情報リテラシ」は人間の活動を系統的に学ぶ教科書です。日頃の活動を知的に進めるためにぜひご活用下さい。

以上

正会員: 渥美 幸雄、植竹 朋文、魚田 勝臣、大曾根 匡、永田 奈央美、森本 祥一